



躍進 (やくしん)

題字は帯解寺住職 倉本 堯 慧 師
くらもとぎょうけい

平成28年 第19号
編集発行

おぎたよしお後援会

〒630-8431 奈良市窪之庄町350
TEL0742(61)6300

自民党奈良を代表し、本会議で質問！

平成二十八年三月四日に開催された奈良県議会二月定例会で、荻田義雄議員は「自民党奈良」を代表し、かねてから取り組んでいる「医療体制の整備」など八項目を取り上げ、荒井知事が平成二十八年度の県政をどのように運営しようとしているのか、その姿勢を質しました。

県民の健康を守る医療体制

南奈良総合医療センター 新奈良総合医療センター

県民の健康と命を守る拠点として、南奈良総合医療センターが平成二十八年四月に開院し、新奈良総合医療センターも平成三十年春に開院が予定されています。

しかし、設備や先進的な医療機器を導入すること共に、高いスキルを備えた医師や看護師を確保しなければ、高度

医療拠点病院としての体制づくりに支障を来すことから、人材確保の状況について現状を質しました。

また、両総合医療センターの名称が堅苦しいとの指摘も少なからずあるため、親しみやすい愛称を検討することを求めました。

また、平松地区周辺の跡地利用については、地域包括ケアのモデル地区とするよう要望しました。



本会議場で代表質問

荒井知事は、四月に開院する南奈良総合医療センターについて、計画どおり五十人超の医師を確保できるとし、今の奈良県総合医療センターでも外科関係の医師を三人、看護師を三十人程度、四月から増員予定としました。

名称は、県民の方々に愛着を持ってもらうことが重要で、愛称については検討したいと答弁しました。

橿原市の医大・周辺まちづくりプロジェクト

医大の教育・研究部門が移転することで、医大・周辺まちづくりプロジェクトが推進されていますが、近鉄の新駅誘致は喫緊の課題であることから、その現状と見通しについて質したところ、荒井知事は、近鉄が新駅整備について応分の負担に応じる姿勢を示しているため、平成二十七年十二月に近鉄、橿原市と担当者会議を設置し、継続的に協議することになったと

し、今後の課題は、八木西口駅を移転する新駅を主張する近鉄と話し合いながら、新駅及び民間活力を導入した周辺まちづくりの進捗を図りたいとしました。

救急体制の充実と県独自のドクターヘリ運用

奈良県の救急車による搬送時間は、平成二十四年度で四十三・一分でした。そのためe-AMATCHシステムを導入し、時間短縮に務めたものの、平成二十六年度は四十四・一分と逆に一分も増えてしまいました。県民の命に関

わることだけに、救急搬送時間の短縮に向けて、どのような取り組みでいられるか質すとともに、新年度に導入されるドクターヘリは、救急車での搬送時間に二時間かかる県南部地域の時間短縮が見込めることから、大きな期待を寄せています。

さらに、救急医療や災害医療において、ドクターヘリを効果的に運航するための体制づくりも重要でありことから、その具体策についても質問しました。

荒井知事は、奈良県の救急搬送体制が改善されていないことを認め、平成二十八年四月から奈良県広域消防組合の通信指令が一元化されることで、これまでの管轄ごとの対応に代わり、現場直近の消防署から出動が可能になるため、現場到着の時間短縮を見込めると答弁しました。

e-AMATCHの導入にも関わらず、時間短縮が出来なかったことを踏まえ、システムへの入力方法を効率化する体制づくりを進めるとともに、平成二十八年度から病院の受け入れについて、ER型救急医療体制をスタートさせ、中

南和地域で「断らない」救急拠点をつくり始めています。



奈良県議会議員

荻田 義雄

後援会の皆さまにおかれましては、日頃より私の政治活動をご支援いただき、心からお礼申し上げます。そのお陰を持ちまして、先の統一地方選挙で五期目の当選を果たすことができました。

私は現在、経済労働委員会及び病院を核としたまちづくり推進特別委員会に所属し、地域の自立や県民の健康を守る医療体制に取り組みしていますが、知事とともに二元代表制の一翼を担う県議会の議会運営委員長として県政全般の運営に関わり、奈良県の発展に努めているところで、今後とも、皆さまのご意見を賜りながら諸課題に取り組んでまいります。



荻田義雄後援会長

辻澤 靖彦

後援会各位におかれましては、日々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年の県議会選挙から早いものでちょうど1年が経ちました。その節は大変なご尽力ご支援を賜り、お陰を持ちまして5期目の当選を果たすことが出来ました。あらためて深く感謝申し上げます。荻田議員におかれましては会派を自民党奈良に改められ、ご自身も議会運営委員長という要職に就かれ行動力を発揮しておられるところで、今後におおいに期待したいと思っております。また次の県議会選挙に向けて、しっかりと地盤を固める為、後援会活動をより活発にしてゆかねばなりません。どうか、皆様方の御力で、後援会の会員拡大に向けて、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

むとしました。

南和地域における救急搬送時間は、他の地域に比べ六三分となつていますが、ドクターヘリであれば二〇分程度まで短縮できる見込みであり、奈良県独自のドクターヘリの運航に際しては、重篤な三次救急患者だけではなく、重症患者の搬送も行い、山間地域での搬送時間の短縮に取り組んで

地域の自立を図る県税収入の確保

平成二十八年度予算は、荒井知事が就任以来、二月の補正予算を含め初めて五千億円を超える積極的なものになりました。中でも自前の予算である「県税」「地方消費税清算金」「地方譲与税」の合計は、一千七百八十九億円で、これは前年度を八十三億円上回り、まさに荒井知事がこれまで推進されて来られた経済活性化の成果として評価するものです。

地域の自立を図る上で、自主財源となる県税収入の確保は重要課題であり、今後の増収策について知事の所見を質しました。

荒井知事は、他府県に比べ人口減少や高齢化が顕著な奈良県にとって、今後の税収見込みは予断を許さない状況であるとして、次の三つの視点から税収の確保に努めたいとしました。

●税源の涵養…企業誘致とともに産業起こしを加速させ、平成二十八年度からは、首都圏・海外への販路拡大、製造から小売りまでを一貫して行うビジネスモデルの構築、グローバルニッチ企業の創出・育成に取り組む。

●課税徴収の強化…県内に事務所を有する未申告の県外法人に対する申告指導で課税ベースの拡大を図るとともに、個人県民税の徴収対策として市町村と協働した徴収体制の構築し、自動車税の納税を呼びかける窓口を設置し、自主納付を促すなど徴収率向上に向けた取り組みを推進する。

●偏在性の高い税制度の構築…そのためには国との連携が不可欠であり、引き続き国に対して粘り強く働きかける。今後、自主財源が依存財源を上回るようにしたいとしました。



質問に答える荒井知事

今後の企業誘致活動について

荒井知事が就任以来、力を注いで来られた企業誘致・企業立地は、平成十九年から平成二十七年六月までの八年半で、二百一十一件の立地を達成されました。

企業誘致は、県税収入及び雇用創出を確保する上で重要な政策であり、これまでの知事、職員のチャレンジ精神が実を結んだ結果だと評価しています。そこで、これまでの税収及び雇用創出の成果がどの程度であったのか。さらに全国一低いとされる工業用系用途地域を拡大するための工業ゾーン創出プロジェクトの概要について所見を伺いました。

荒井知事は、これまで職員が三千社を超える企業に働きかけ、自らも企業立地セミナーで奈良県の魅力をPRするなどして結果、平成十九年度から二十六年までには納付された法人県民税と法人事業税は、総額で百十九億六千万円で、二千二百五十九人の雇用が創出されました。



9月に竣工されたアンズコーポレーション奈良工場

また、企業立地補助金を交付した企業のうち、奈良県に本社機能を移転した法人など主要九社直近の売上高合計が約六百八億円になっているものの、企業ニーズに答えられない産業用地が少なくなっているため、西名阪自動車道や京奈和自動車道周辺で新たな工業ゾーン創出プロジェクトを進めているところで、課題を抽出したうえで必要な社会インフラを検討し、適地の優先順位づけを進め、順次工業ゾーンの整備に向け具体化するつもりです。

地域の活性化に貢献する観光振興

また伸びる奈良県観光！

荒井知事は、これまで多彩なイベントにより奈良の賑わいづくりを推進して来られ、



大立山祭り開幕セレモニーにて

五万人が来られるなど盛況に終えることができました。観光客が増えるなか、今後どのような振興策を展開するか尋ねたところ、

これまでの観光資源に加え、四季を通じて様々なイベントを実施したいとし、課題や問題点を洗い出す「奈良県観光サービス改善委員会」を設置することで、観光の質を上げるとともに、インバウンドの市場ニーズを把握する委員会も設置し、商品開発や人材育成につなげ観光消費の増大を図るとしました。

登大路バスターミナルの整備

奈良公園は、国内外から年間一千四百万人の来訪者があふれる観光地であり、わが国を代表する公園でもあります。萩田議員は、かねてより奈良公園周辺における公共交通機関の利用環境を向上させ、観光地としての魅力を高めるためバスターミナルの必要性を訴えてきました。



登大路バスターミナル完成予想図

荒井知事は、この要請を受けて平成二十四年二月に「奈良公園基本戦略」を策定し、県庁東の県営駐車場（仮称）登大路バスターミナルとして整備することが決まりました。

荒井知事は、これまで来訪者をお迎えするうえで不足していた交通ターミナルや団体集合施設、休息・展望施設、観光案内・物販・飲食施設を平城宮跡歴史公園拠点ゾーン西側地区に整備し、復元遣唐使船をランドマークとして大宮通り側へ移設することで、にぎわいのある拠点に位置づけているとしたうえで、平城宮跡展示館の平成二十九年完成に合わせ、歴史公園の第一次開園に取り組む姿勢を示しました。

新ホテル・交流拠点整備

懸案であったホテル誘致問題で世界有数の国際級ホテルの誘致に目途がつき、ホテルを核としたまちづくりが本格化しますが、その実現に向け知事の所見を伺いました。

国際級ホテルのマリオットグループのトップブランドであるJWマリオットが日本に初めて奈良に進出することで、奈良観光のあり方を変革し、滞在型観光地として発展することをめざすとともに、ホテル以外の施設整備はPFI事業により、三月末に決定するとしてきました。

平城宮跡拠点ゾーン整備

平成二十二年に平城宮跡が閣議により歴史公園事業化が決定されて以降、公園整備が進

められており、朱雀大路東側で国土交通省による平城宮跡展示館設置工事が始まり、西側では奈良県が工場跡地の整備に向け準備をしている状況ですが、今後の方針について尋ねました。

市町村との連携及び支援

市町村支援のあり方

奈良県の県都である奈良市においても、幼稚園や小学校が廃校になるなど、全国的にも人口減少、少子高齢化が進み、地方創生への取り組みが本格化する中、奈良県としても、人口減少や地域経済の縮小及び過疎化を克服するため、全市町村において地方版人口ビジョンと地方版総合戦略の策定をめざしています。

国も平成二十六年補正予算で地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金を、平成二十七年補正予算では地方創生加速化交付金を計上しましたが、その活用状況及び波及効果について説明を求めるとともに、これまで奈良モデルとして推進して来られた「まちづくり連携協定」（奈良市など十三市町村と包括協定を締結）を踏まえた今後の市町村支援のあり方について質問しました。

荒井知事は、国の地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金地として県内全市町村に合計総額十九億二千七百万円が交付され、移住・交流促進・子育て支援、農林業振興等に活用され、地方創生加速化交付金は、三十七市町村の六十三事業について総額二十億円余りを申請中とのこと

したが、交付金事業については、人口の社会増減の均衡、観光入り込み客数や宿泊者の増加、企業誘致件数や起業家数の増加、新規就農者数の増加などを目標化し、重要業績評価指数により評価されますが、県として政策効果が最大限発揮されるよう政策間連携、地域間連携を図るとし、奈良モデルについては、今後の地方自治の新しい形として発展させたいとしました。

奈良市八条・大安寺周辺地区の整備状況について

市町村支援プロジェクトの一つに奈良市八条・大安寺周辺地区で、都市計画道路西九条佐保線整備やJR関西本線



奈良市八条・大安寺周辺

の高架化、新駅設置を中心とする新しいまちづくり事業があり、その進捗状況について尋ねたところ、同地区は鉄道と高速道路が奈良県で初めて交通結節点となるため、まち

づくりのポテンシャルが高いとして、奈良市と緊密に連携・協働しているところで、平成二十八年度には基本構想を策定する予定とのことでした。

学研高山地区の今後

生駒市の学研高山第二工区は、土地区画整理事業として構想されたものの、当時の生駒市長が計画を白紙撤回したことで、頓挫したままになっていましたが、現市長が同地区でURが所有する土地を一括購入し、まちづくりに取り組むと表明したことから、県としてどのように対応するか、その姿勢を質しました。



高山第一工区より望む

荒井知事は、生駒市からまちづくり連携協定を締結したことの意向が示されたので、協議を開始する旨を回答したとして、今後は、生駒市のまちづくりに対する考えを聞いた上で、奈良県としてどのような協力が可能か検討するつもりでした。

経済活性化につながる道路整備

奈良県経済を活性化させるためには、基幹道路の整備が不可欠なことから、萩田議員は国土交通省の森道路局長に京奈和自動車道及び国道一六八号、一六九号の整備促進を要請しましたが、その進捗状況とともに、国道三〇八号大宮通り高架部から宝来ランプへの乗り入れ状況について質しました。



宝来ランプ

荒井知事は、京奈和自動車道について、平成二十八年度に御所南インターから五條北インター間の供用を予定しており、併せて大和御所道路及び大和北道路での用地取得、工事を進めているところで、国に榎原北インターから榎原高田インター間の工事着手を要望しているとしました。国道一六八号五條新宮道路は、県が担当する川津道路と

奈良県農業の振興について

荒井知事はこれまで「もうかる農業」をめざし、農業所得の向上に向けた生産、流通・加工、販売を推進して来ましたが、平成二十六年の農業産出額は四百二億円と前年に比べ三十億円減少しています。これは全国四十四位であり、平成二十七年の農林業センサスでも農家数が二万五千五百九十六戸、耕作放棄地

は六百三十三ヘクタールとなっており、今後、改善すべき点があると指摘、その所信を求めたところ、マーケティング・コスト戦略に基づき、食と農の連携を図りながら農業を振興する作戦で、首都圏でのトップセールスや観光物産展、フードフェスティバルの開催により、県産農産物の認知度向上と販路拡大に取り組むとともに、柿、茶、イチゴ、大和牛で非破壊検査などをリーディング品目、大和野菜などをチャレンジ品目として絞り込み、生産拡大を目指して来ましたが、同じ農地面積、経営体数である神奈川県産の農業産出額一億七千八百八十億円は約半分であることを認識し、同県をベンチマーク県としてやり方を工夫し、ブランド力を向上させるなどして、販売額を伸ばす姿勢を示しました。平成二十八年度は、柿、イ

リニア中央新幹線の整備促進について

むとともに、柿、茶、イチゴ、大和牛で非破壊検査などをリーディング品目、大和野菜などをチャレンジ品目として絞り込み、生産拡大を目指して来ましたが、同じ農地面積、経営体数である神奈川県産の農業産出額一億七千八百八十億円は約半分であることを認識し、同県をベンチマーク県としてやり方を工夫し、ブランド力を向上させるなどして、販売額を伸ばす姿勢を示しました。平成二十八年度は、柿、イ

リニア中央新幹線は、東海道新幹線の代替ルートとして事業が始まっています。東京名古屋間については、平成十六年十二月に工事が着工されましたが、名古屋以西については環境影響評価すら実施されていません。二月に開催された自民党超党派リニア促進に関する特別委員会でも具体的な議論がなされなかったとのことでした。一方、大阪府や関西経済連合会などで構成するリニア中央新幹線全線同時開業推進協議会が開催したシンポジウムで、全線開業による経済効果十二兆円と見解が示され、奈良県にとつて経済活性化に大きく寄与する一大プロジェクトです。これまでの取り組みを踏まえ、国及びJR東海に対しどのような対応するか質しました。

また、建設に必要な用地取得やトンネル工事にもなつて発生する土砂の処理など、将来に想定されるJR東海への支援についても、引き続き想定ルート区域で各種調査を実施するとともに、駅や車輻などの附帯施設についても、関係する機関と検討し、全線同時開業に向け取り組みを強化してまいります。

写真で見る萩田議員の活動ぶり!



■平成28年4月に開校する『なら食と農の魅力創造国際大学校』の校舎竣工式典に参加。良質な料理を提供できるシェフの育成を期待。(平成27年10月8日)



■第6回奈良マラソンには、1万7、500人のランナーが参加しました。例年通り窪之庄交差点で応援しました。(平成27年12月13日)



■大和川流域の美化活動「大和川一斉清掃」に関係者の皆さんと参加。(平成28年3月6日)



■県議会の決算審査委員会で県政の諸課題について質疑しました。(平成27年10月15日)



■済美南分館広場にて「ふれあい夏まつり」が開催され子供たちと共に夏まつりの楽しい時を過ごす。(平成27年7月26日)



■本会議で手話通訳を実施している鳥取県議会を訪問。奈良でも検討を始めます。(平成27年11月10日)



■下御門町商店街で坂道を利用した恒例のそとめん流しが行われた。(平成27年8月1日)



■帯解小学校で開かれた『帯解地区出初め式』に参加。(平成28年1月17日)



■平城宮跡で初めて開催された「大立山祭り」の開幕セレモニーに参加しました。観光客が落ち込む冬のイベントとして期待されます。(平成28年1月29日)



■全国高校総体・フェンシング競技大会が、全国188校579名の参加の下、近畿総体として奈良県の桜井市で実施されました。(平成27年8月11日)



■菅原天満宮にて五穀豊穰を祈願するおんだ祭りが執行され、私も松苗を配らせていただきました。(平成28年2月25日)

■奈良市消防団の年末警戒(夜警活動)に同行させていただきました。市内各分団でも同様の活動をされています。(平成27年12月29日)



■大安寺生小学校で開催された地区の防災訓練に参加、防災の大切さを実感しました。(平成27年11月28日)



おぎたよしお略歴

- 昭和22年12月7日生まれ 68歳 奈良県立奈良商工高等学校卒業
- 昭和58年、奈良市議会議員に当選(3期)
- この間、企画建設委員長、総務財政委員長、議会運営委員長、副議長を歴任
- 平成7年、奈良県議会議員に当選
- 厚生常任副委員長、幹線交通対策特別副委員長を歴任。
- 平成15年奈良県議会議員に再選。総務・警察委員長、議会運営委員長を歴任
- 平成22年、自民党奈良県連 総務会長に就任、現在に至る
- 平成23年、奈良県議会議員に4選。病院を核としたまちづくり推進特別委員会委員長に就任
- 平成24年、自民党奈良県連第一選挙区支部幹事長、奈良市支部長に就任
- 平成27年、奈良県議会議員に5選
- 平成27年、議会運営委員長に就任

告知板

「ミニ集会」開催のお願い
 萩田義雄さんを招いてミニ集会を開いてみませんか。何人からでも参ります。
 ☎074-216-16300

おぎたよしお後援会 会員募集中!

おぎたよしお後援会は、おぎたよしの議員活動を支援する活動をしており、おぎたよしおを支えていただく後援会を募集しております。
 ぜひとも皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

おぎたよしお公式ホームページ <http://www.ogita-yoshio.com/> 携帯電話はこちらから